

平成 24 年度第 4 回

県政知事懇談

# 湯崎英彦の地域の宝 チャレンジ・トーク

と き 平成 24 年 7 月 7 日 (土)

ところ 坂町町民センター 2 階大ホール

広 島 県

目 次 頁

開 会 .....	1
知事挨拶 .....	1
事例発表者紹介 .....	2
事例発表① .....	3
事例発表② .....	5
事例発表③ .....	10
事例発表④ .....	13
事例発表⑤ .....	16
閉 会 .....	18

## 開 会

(司会 (八幡))

大変長らくお待たせをいたしました。

ただ今から「湯崎英彦の地域の宝チャレンジ・トーク」を開催いたします。

私は、広島県広報課の八幡と申します。

本日は、チャレンジに向けて元気の出る楽しい会にしたいと思います。どうかよろしく  
お願いをいたします。ありがとうございました。

## 知事挨拶

(司 会)

それでははじめに、湯崎英彦広島県知事がご挨拶を申し上げます。

(知事 (湯崎))

皆様、こんにちは。今日は土曜日ですけれども、たくさんの皆様にお集まりいただきま  
して本当にありがとうございます。

今日は、県政知事懇談会「湯崎英彦のチャレンジ・トーク」という会を開催させていた  
だきます。これは、実は3シリーズ目で、第1シリーズは平成22年、全23市町を回り、  
10名ぐらいのそれぞれの市町の住民の皆さんと懇談をさせていただきました。2年目は県  
を8つの地域に分け、坂町の場合は広島市と一緒に開催させていただきましたけれども、  
それぞれの地域でいろいろな挑戦をされている方のご紹介をし、発表をしていただきまし  
た。今回は3シリーズ目で、もう一度23市町それぞれを訪問させていただき、そして、そ  
の地域でのいろいろな挑戦を発表いただくことにしております。

これまでこういう形で住民の皆様とお話をさせていただいて、県政の基礎の情報として  
活用させていただいております。この去年から始めた「私の挑戦」というシリーズが非常  
に好評で、それぞれの地域のことなのですけれども、ご紹介することによって、地域で活  
躍されている方がたくさんいらっしゃるなというのと、皆さんも自分たちでできることが  
たくさんあるというのを実感してお帰りいただけるということで、今日は5組の皆さんに  
発表いただきますけれども、きっとすばらしいお話が伺えるのではないかと考えておりま  
す。

今日は、午前中、坂町が悠々健康ウォーキングというのに取り組んでおられるというこ  
とで、私も「頭部みはらし公園」まで、それほど長い距離ではありませんでしたけれども、  
片道15分ぐらい歩かせていただきました。改めて坂町の地理関係とか、こういうふうに

なっていたんだというのが、あそこに行くと全体が見えるので分かったり、また、坂の急さ、すぐそこが海なのですけれども、そういうのを改めて実感いたしました。それも含めて、今日の会合には坂町のほうにも大変お世話になっておりまして、吉田町長は今日はいらっしゃらないのですけれども、改めてお礼を申し上げたいと思います。

今日はこれから 80 分の予定で開催させていただきます。最後までおつき合いをお願いしたいと思います。どうぞよろしく申し上げます。

(司 会)

湯崎知事、ありがとうございました。それでは、壇上のほうのお席にお移りください。

## 事例発表者紹介

(司 会)

それでは、本日の事例発表者の皆様をご紹介します。発表者の皆様は壇上にお上がりください。

それでは順番にご紹介をいたします。

まず、ベイサイドビーチ坂でのイベントの企画などを通じて、坂町の賑わいづくりに取り組んでおられる広島安芸商工会坂支所長の菅田一郎さんです。

続いて、坂町悠々健康ウォーキング大会の企画・運営をされている悠々健康ウォーキング大会実行委員の南本正則さんです。

続いて、平成 20 年度ハワイでの坂町海外研修に参加された高校 3 年生の河口優斗さんです。

平成 22 年度ロサンゼルス・サンフランシスコでの坂町海外研修に参加された高校 2 年生の縫部里穂さんです。

続いて、平成 24 年度ロサンゼルス・サンフランシスコでの坂町海外研修に参加を予定されている中学 3 年生の二井矢直央さんと、中学 2 年生の花房亜美さんです。

どうもありがとうございました。事例発表者の皆様はお席にお戻りください。ありがとうございました。

ここからは湯崎知事にコーディネーターをお願いしたいと思います。それでは、湯崎知事、どうぞよろしくお願いをいたします。

## 事例発表

### 事例発表①

#### (知 事)

改めまして、今日事例発表をいただきます5組の皆様は、それぞれ地域、あるいは職場、また学校で積極的に活動をして、挑戦を続けていらっしゃる方々です。

最初は、広島安芸商工会坂支所長の菅田一郎さんをお願いしたいと思います。

改めて菅田さんのご紹介ですけれども、ベイサイドビーチ坂が年間を通じてたくさんの人が訪れる場になるように、「リオ de ビーチカーニバル」などのイベントを企画・開催していらっしゃいます。リオのカーニバルは実は菅田さんがやっていたと、皆さんも思っていたのではないかと思います。また、「さかサンデーマーケット」の運営などもやっています。こういったことを通じて、坂町の賑わいづくりに取り組んでいらっしゃいます。

今日の発表のテーマは、「坂の賑わい創出」です。それでは、菅田さん、よろしく願いいたします。

#### (事例発表者(菅田))

ただいま紹介をいただきました広島安芸商工会坂支所の菅田でございます。1950年生まれでございます。ざっと62年でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

原稿を書いてきましたが、老眼のため、ちょっと難しいのが判明いたしました。ときどきミスるかも分かりませんが、どうぞご勘弁ください。

湯崎知事におかれましては、ご趣味が自転車ということで、私もマラソンをやっておりまして、42kmも走りますが、最近ではマラリックと言いまして、ピクニックとマラソンがひつついた、山を走ったり歩いたり、何十kmコースというのがございまして、年に似合わず頑張っております。

広島安芸商工会坂支所は、平成21年4月に、わが坂町と海田町、広島市の船越町が合併をいたしました。3年余りたちました。ときどきこうやって原稿を確認しながら進めたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

わが坂町には20年を超えるイベントがございます。まず、「潮の香まつり」、これが来月の8月で21回を数えます。それから、3月に行われる「ようよう祭り」、これが30年弱です。わが坂町は、潮の香りと緑豊かな坂町ということで「潮の香」、それから「ようよう」というのは「ありがとう」という坂町の言葉です。

本日ご案内をいたします「リオ de ビーチカーニバル」というのが今年で第4回を、この6月3日に終了いたしました。おかげをもちまして、大きな祭りとなっております。

ここのいきさつを少し述べてみたいと思います。平成21年5月ごろだと思いますが、私

が坂支所長となったときにお話をいただきました。それは、株式会社ひろしま港湾管理センターさんから坂町の企画財政課に話がございまして、そこに商工会も呼ばれまして、今後どうするかという話をしました。その年の9月に第1回を開催いたしました。当時の経営指導員さんといろいろと協議いたしまして、この9月にやろうということになりました。

それで、名前をどうするかということになりまして、その指導員さんがいろいろ考えて、「リオ de ビーチカーニバル」はどうか。「リオ」というのはスペイン語あるいはポルトガル語で川を意味しております。川の支流にはいろいろな人の交流がある。わが坂町だけではなく、近隣のまちにもいろいろな方がいるだろう。そういうことで、海田町国際交流協会さんに声をかけてみたり、広島文化学園大学の先生など、いろいろとお声をかけて進めました。

ありがたいことに、坂町には社会福祉協議会さんとか、女性会の皆さんとか、いろいろな団体の方が熱心に今までイベントと申しますか、まちを支えてこられました。そこで私どもの商工会もひとつ乗せていただきました。

そんな中で、この「リオ de ビーチカーニバル」がこのベイサイドビーチ坂というところで開催されます。これは広島県がつくられたものではございますが、そのお話の中に、年に2ヵ月しか有効に使っていないと。あとの10ヶ月をどうしようかというところからこの「リオ」が始まりました。まず、国際交流協会さんに声をかけたら、ブラジルの方がいっぱいいらっしゃいまして、ブラジルといえバリオで、リオといえ皆さんもご存じのようなダンスということで、このロケーションと水尻のベイサイドビーチ坂が融合いたしました。すごく盛り上がりました。特に男性の皆さんには喜んでいただいております。

今、3年余りとなっておりますが、また一つ、みなとオアシスというお話がございました。このみなとオアシスというのは、港を中心に、オアシスですから、湖とか泉、賑わいを創出するという事です。その仮登録が昨年でしたけれども、いま現在、本登録に向けて、産業建設課のほうで進めてもらっております。このみなとオアシスのものをベイサイドビーチ坂でやることで賑わいを創出しようということをお願いしております。

そのみなとオアシスをつくるに当たって、まだいろいろ奔走しておりますけれども、港は、昔は人や物が行き来をして、すごく活発なところでした。近年では、経済活動が中心となりまして、人々の行かない空間になってきました。しかしながら、住民参加の地域活性化の取組に対して支援を行ってもらおうのがこのみなとオアシスという事です。先ほどから言っております坂町の住民の皆さんの活躍、ご指導があつてこそ、私どもの商工会も一生懸命頑張っていけますので、今後ともよろしくお願いいたします。

一番目というのはなかなか難しゅうございまして、取りとめがない話になっておりますけれども、この辺で終了させてもらおうと思います。よろしく。ありがとうございました。

## (知 事)

菅田さん、ありがとうございました。「リオ de ビーチカーニバル」は4回目になるということで、地元の皆さんにはおなじみになっているのではないかと思います。私も、出席をしたことはないのですけれども、ポスターとか拝見させていただくと、確かにとても楽しそうな会で、お祭りといっても、昔からある神社のお祭りとか、これはこれで伝統を守って続けていくのは大変だと思うのですけれども、こういう全く新しいお祭りを一からつくるといのはなかなか大変なことだと思うのです。こうやって菅田さんのような方がいらっしゃって、初めて物事が動いていく。誰か裏方さんがいて、つくっていらっしゃることだと思うのです。ベイサイドビーチは確かに県がつくった施設ではありますが、地元にとっても親しまれているところではないかと思います。それがもっともっと皆さんに使われるようにこういう企画をされる。皆さんもそれに参画することによって、地元がまた盛り上がっていくというのは本当に素晴らしいことではないかと思います。菅田さんの裏方の努力に対して改めてまた大きな拍手をお願いできればと思います。本当に菅田さん、ありがとうございました。

## 事例発表②

### (知 事)

続きまして、南本正則さんをお願いしたいと思います。

南本さんは、坂町悠々健康ウォーキング大会の実行委員でいらっしゃいます。このウォーキング大会の企画・運営をされるなど、ウォーキングを通じた町民の健康づくりと交流を進めていらっしゃいます。

今日の発表のテーマは、「悠々健康ウォーキングのまち宣言の取組」です。それでは、南本さん、どうぞよろしく願いいたします。

### (事例発表者 (南本))

紹介いただきました南本です。今日、湯崎県知事に会いますので、女性の方だったら髪の毛のセットをするのですが、僕はサマーカットしてきました。暑いのでサマーカットしてみました。よろしく願いします。

実行委員は何人かいるのですが、何で僕が発表するのか。スポーツ推進委員の会長をしているからするのか分かりませんが、仕方ない、これも罰じゃろうということで、願いします。

まずはじめに、坂町の概要についてお話しします。文章を書いているのですが、話が飛ぶかもしれません。つじつまが合うかどうか分かりませんが、一生懸命頑張ります。

坂町は広島県の南西部に位置して、広島市と呉市に隣接して、JR呉線、広島呉道路、海田大橋、呉31号線により広島・呉市の中心部には約20分でアクセスできる、便利性的

高いまちでございます。

また、坂町の面積で見ますと、50%以上を山林で占めておりまして、まちの周囲は約7.1kmありますが、海岸線と山林で囲まれているのが坂町でございます。また、東側の熊野方面には標高400mの山々が連なっておりまして、市街地の背景には緑豊かな自然環境が整い、前面は島影の美しい広島湾の風景が広がり、四季折々の豊かな自然に恵まれております。朝、県知事さんはウォーキングで頭部公園のみはらし台まで上がっていただいたので、経験されていると思います。

次に、坂町が推進している21世紀の健康増進公園ネットワークの整備事業の取組についてお話しさせていただきます。

坂町では、市街地を中心に横浜公園、さか・なぎさ公園、平成ヶ浜中央公園、北新地運動公園、ベイサイドビーチ坂などの公園、地域ごとの街区公園、ウォーキングトレイル事業における歩道が整備されております。平成15年度からは、これらの公園やウォーキングトレイルと坂町ふるさと自然の道事業で整備した頭部みはらし公園、県知事さんが行かれた公園です。それから天神堂見晴らし遊歩道、水尻ベイサイド遊歩道、都市緑化地である小屋浦いこの森、さらには既存の坂町遊歩道や中国自然歩道を結び、町内に3箇所あるJR呉線各駅、これは坂町内には三つの駅があります。これも一つの特徴だろうと思えますけれども、その各駅とリンクさせていただいて、町内全域の緑豊かな景観、自然や歴史、文化的資源とネットワーク化する21世紀健康増進公園ネットワーク整備をされています。このことにより、坂町内外の人々が歩くことを通じて健康の維持・増進を図るとともに、自然を大切に作る心、ふるさとを想う場を創造し、都市と自然が調和した心も体も健康になる自然に恵まれた健康で文化的な住みよいまちの実現を目指しております。

内容につきましては、平成20年11月に、平成3年度より広島県唯一のフルマラソンコース42.195kmを坂町内で運営し、大会を開いております。毎年開催しておりますけれども、その広島ベイマラソン大会とあわせて、これらのコースを活用した広島県主催の第1回の広島県民ウォーク大会が同時に開催されています。その大会には、2km、5km、10kmのコースがあり、ウォーキングに1,400名の参加がありました。さらに、平成22年8月1日に、町制施行60周年を記念し、ウォーキングを通じて健康でたくましい心と体をつくり、悠々とした心豊かな生活を目指し、親から子へ、子から孫へと伝統あるわがまちを受け継いでいくために、悠々健康ウォーキングのまちを宣言しました。この宣言を機会に、ウォーキングのまち、さかまちを全国に発信するとともに、ウォーキングを通じて、町内外の方々の生涯にわたっての健康づくりと交流の促進を図ることを目的として、イベントを、町内の各種団体、企業、町民、地域、学校、行政など22団体が組織する実行委員会を結成しました。実行委員会の企画・立案をしました坂町悠々健康ウォーキング大会をまちぐるみで毎年開催する運びとなりました。平成24年、今年の3月25日に記念すべき第1回坂町悠々健康ウォーキング大会が県内外から1,000名を超える参加者を迎え、盛大に開催されまし



た。今後もウォーキングのまち、さかまちとして、ウォーキングを通じて町内外の方々の生涯にわたっての健康づくりと交流の促進を図ることを目的に、悠々健康ウォーキング大会を定着させ、全国に広めていくよう、まちぐるみでウォーキング事業を推進していきたいと思えます。

この間の第1回の悠々健康ウォーキングのスナップ写真がありますので、それを見ていただきたいと思えます。

これは受付風景です。この受付での特徴は、このカードです。ゼッケンです。受付で自分の名前と住所、丸いところに何キロ歩くと、2 km, 5 km, 10 kmと、自分で手書きをしていただくのが一つの特徴でございます。

その隅のほうで健康ブース、血圧計ですね。こういう測定もあります。歩く前、歩いた後、血圧を測っていただくようにブースを設けております。

これは、その健康ブースの中にありますマインドバランス測定。測ってみたら、私はこういう年齢になっていたのか、私はこういう年齢じゃなかったのにねと、いろいろな声が聞こえました。

その中に食生活コーナーというので、坂町にも推進委員さんがおられます。そういうボランティアの方々がこういうコーナーを設けて、食生活の指導をする。朝、これを食べたらおいしいよ、これはいけないですよと、絵を書いていたでいて、それをとっていただいて、そのアドバイスを受けるというコーナーでございます。

いよいよ開会式ですが、随分こちらの陰にも隠れていますけれども、1,000名以上いた開会式でした。ここで準備体操などをしまして、注意事項を言い、開会しました。

これは10 kmのスタートです。これだけずっと列になっていますが、たくさんおられましたので一部しかスナップ写真は撮れませんでした。

これは、スタートから2 kmぐらいのところですが、もう長い列です。足の速い人が前に出てこられます。赤いジャンパーを着ている方は、町外から来られた人です。歩く会ということで、経験者ということですが、そういう人が先頭で、休憩なしでどんどん歩いて、真ん中のほうがちょっと途切れる感じです。

これは10 kmコースですから、水尻まで歩いてきました。これはベイサイドビーチのところの踏切、水尻駅です。先頭に皆さんがいるので、うちの役員が黄色い帽子をかぶって、先導というワッペンを付けて、先導します。これ以上早く歩かないでよということで、時間を調整しながら先導しています。前のほうに赤いシャツの方がおられるのは、やっぱりウォーキングの経験者で、健康で足が速く、先頭のほうに来られています。

これは水尻から上がった竹藪の中です。今日、朝、竹藪の中を通らせていただいたのですが、竹藪の中に入りましたら、空気も神秘性があって、かぐや姫が生まれたようなところだなという感じがする風景でございます。

これもベイサイド遊歩道、水尻から上がったところの休憩所です。みはらし台がありま

す。ここは見えていたところでした。

ちょうど3月25日でしたので、今年はちょっと時期的にずれていたかもしれませんが、坂の町木、梅の木、鳥はメジロで、花はアサガオということで、梅の木、紅梅がたくさんあります。10 kmのコースは、こういう中を頭部のみはらし台まで行きます。

みはらし台のちょっと手前ですが、梅の木がたくさんきれいに、ちょうど時期的に梅の花が満開できれいなところでした。

これが頭部のみはらし公園です。今日の朝、湯崎県知事さんに登っていただきました。ここからのみはらしは、広島市内が一遍に見えます。みはらし台から撮りました広島市内です。こういうみはらしが見えるきれいなところでした。今日は特に雨上がりで、霞のかかっていない、きれいなまちが臨めたのではないかと思います。

これは5 kmのコースで、2 km近くを歩いたところでした。まだ固まって歩いているところで、これは横浜公園に行くところですが、そこを歩いています。その後ろにありますのは広島大橋です。この下を先導者が誘導して歩いているところでした。

これは横浜公園に上がるところの遊歩道です。ここらでぼつぼつ差があいてきます。早い人と遅い人の差があいてくる場所ではないかと思います。

ここらは横浜を回って5 kmのうちの4 km付近です。子どもも弱ったな、もうくたびれたという顔をしているスナップ写真です。

これは2 km、そのなぎさ公園の道を入るところです。

これはなぎさ公園。背景には県の官舎があります。そこを歩いていただいて、2 kmですから、子どもさんを連れた台車とか、子どもさんとか、おじいさんとおばあさんがお孫さんと一緒に歩いている2 kmの風景でございます。

左側はさか・なぎさ公園です。ここは、夜に行きますとシンガーソングライターとか、アベックの方とか、夏になりますと花火とか、そういうのが拝見されます。特にここではシンガーソングライターがギターを持って、大きい声で歌ってもみんなに迷惑をかけないというので、ときどき拝見します。

ここは一つのゴールで、皆さん元気よく入ってきました。この方々は若いですから、元気で帰ってきました。中には、やれやれ、ようやくとゴールしたというスナップ写真もあったのですが、それは見えなかったもので、今日はありません。

これは、カキ雑炊でございます。昔の婦人会で、今は女性会といいます。女性会の方々、ボランティアの方々、一般の人に参加していただき、カキ雑炊をつくっています。広島ベイマラソンのときからカキ雑炊を皆さんにお配りしております。その過程で、もう二十何年お手伝いいただいている方も中にはおられます。世代交代で引退されて、若い人が引き継いだところもあります。そういう心のこもった雑炊が出るので、皆さん大変おいしく、町外から来られた人は、初めてカキ雑炊を食べたと。もちろん坂でできるカキですから、カキも新しい。おいしいねと食べておられました。これを食べるのに、並んでもらって手

に入れた過程があります。

皆さんがおいしくいただいているスナップ写真です。カメラを向けると、1人、2人ピースをするのがいるのですが、中には1人おられます。そんなことで、カキ雑炊を食べて、気持ちよく帰っていただいたと。カキ雑炊はゴールした時点で配りますので、カキ雑炊を食べて帰っていただきました。

1名抜粋したところの画面です。皆さんが健康に、将来、年をとられても、ウォーキングで鍛えた足をとということで、年配の方、お年寄りの方は元気で、足腰が立たないと困るので、一番老化するのは足から来るということを聞いておりますので、足をまず鍛えてもらう。そういう機会を与えようということでウォーキングを取り入れて、坂町民皆さんが一体になって、坂悠々健康ウォークという大会を開いて、これをずっと今から続けていきたいということで、この大会が終わりましたら、アンケート用紙を受付のところで配ります。このアンケート用紙を書いていただいて、また来年の参考にさせていただきます。参加した人のアンケートを参考資料にさせていただきます、次の第2回につながる大会を設けていきたいと考えております。

聞きづらいところがあったと思いますが、以上で終わりたいと思います。大変ありがとうございました。

(知 事)

南本さん、ありがとうございました。先ほどの菅田さんと同じだと思うのですがけれども、こうやってまちのイベントをつくっていただく裏方としてやっていただいているのですけれども、本当に大変なことだと思います。

この悠々健康ウォーキング大会は1,000名の方が参加されたのですか。

(南 本)

1,000名以上来られました。

(知 事)

すごいですね。坂の人口は1万2,000人ぐらいですかね。

(南 本)

1万2,000～3,000人前後。

(知 事)

1万2,000～3,000人の中で1,000人が参加するのはすごい割合ですね。10%弱ぐらい。

(南 本)

町外からもいらっしやっています。

(知 事)

広島市でいえば、10万人参加のイベントですね。それぐらいの規模のものになっている。第1回からこんなにたくさん集まっていたいただいた鍵は何かあるのですか。

(南 本)

僕らも初めは心配していたのですが、締め切ったら1,000名を越しまして、安堵しているところでございます。

(知 事)

私もコースの一部を歩かせていただいたのですけれども、写真にもありましたが、梅がたくさん植わっていて、地元の皆さんもひょっとするとあそこの上まで上がられたことがない方もいらっしやるのではないかと思います。下から見たら、きっとあの梅は見えるのではないかと思うのです。あんなところに梅がたくさんあるというのがみはらし公園の近くということで、とてもきれいな景色が見えて、まさに健康にもいいし、坂町の新たな発見にもなる。そんな気もいたしました。

こうやって菅田さん、あるいは南本さんの努力によって、坂町の楽しさがますます増えているということで、南本さんに改めてまた大きな拍手をいただければと思います。どうもありがとうございました。

### 事例発表③

(知 事)

続きまして、河口優斗さんです。先ほども紹介がございましたように、平成20年度坂町海外研修に参加されていらっしやいます。現在は高校3年生です。中学2年生のときにハワイでの坂町海外研修に参加いただいたのですが、今日は、海外研修に参加して学んだこと、また、今後の夢などについてお話をいただきます。

発表のテーマは、「海外研修を経験して活かした事とこれからの自分」です。それでは、河口さん、どうぞよろしく申し上げます。

(事例発表者(河口))

こんにちは。広島県立広島工業高校3年の河口優斗です。よろしく申し上げます。

私は、中学2年生の夏休みに、坂町主催の海外研修に参加させていただきました。そのときはハワイに行かせていただきました。この研修に参加しようと思った理由は、自分の

住んでいる坂町や広島の特徴をもっと伝えたいと思ったことと、海外の国に対してすごく興味を持ったからです。

ハワイ研修では、短い期間ではありましたが、多くの経験や現地での状況を肌で感じることができました。初日は、ハワイ市内の視察ということで、市内にはイオラニ宮殿などの多くの歴史的建造物があり、ヌアヌパリという展望台からはハワイの美しい自然も見ることができました。

次の日は、現地の中学校に訪問させていただきました。授業を見学し、現地の同世代の友達とも交流することができ、意見交換もすることができました。また、その後、ハワイにある石鎚神社という神社に行きました。この神社の彫刻は、坂町出身の林様が手掛けられていると知り、僕は驚きました。

ホームステイでは、ホストファミリーの子どもたちと触れ合うことができ、自分の住んでいる広島県や坂町のことについて英語で会話しましたが、内容をうまく伝えられなかったときなど、ホストファミリーの方が優しく助けてくださり、とても温かい気持ちになりました。ハワイの方々の人や自然に対する優しさを僕も見習いたいと思いました。

この研修を通じて、コミュニケーションの大切さや様々なことにチャレンジするすばらしさを学びました。

中学校を卒業し、広島県立広島工業高校へ入学し、僕はアーチェリー部に入部しました。何か新しいことにチャレンジしたかったからです。アーチェリーは、県外の選手やコーチなどと合宿をしたり、社会人の方、大学生の方と試合をする機会が多いスポーツでもあります。十分なコミュニケーションをとり、よい人間関係をつくることがとても重要ですし、それが試合の結果にも影響してくると思います。これには中学校生活における海外研修の体験などが自分の中で大きな基盤になっていたと思います。

クラブ活動を通じ、2年生のとき、初めのころは全国高校選抜のことなんて自分には無関係とあきらめていましたが、何気なく過ごすのではなく、自分で目標を決め、取り組んだ結果、全国高校選抜に出場することもできました。中にはうまくいかないときもありましたが、あきらめずにこつこつ努力を継続することが夢の達成につながると、自分はそのとき実感しました。また、このように継続できたことは、先生方や周りの仲間などの支えがあったからこそだと思います。

アーチェリーはまだまだメジャーではありませんが、今月ロンドンで開催されるオリンピックでは、広島県から菊池先輩と石津さんの2名の方が出場されるなど、大きな成果を出されております。また、私は8月に新潟県で開催されるインターハイに広島県の代表として出場させていただきます。次は参加するだけでなく、よりよい結果を残し、よいニュースを広島県から発信できたらと思っています。

私は高校を卒業後、地元広島の方に就職し、地元企業の活性化と、地域の活性化に取り組んでいけたらと思っています。

最後に、私は広島県の観光大使ではありませんが、「おいしい！広島県」を自分に置き換え、「おいしい！河口優斗」として、中学校時代に体験させていただいた海外研修や高校生活におけるクラブ活動を通じ、アーチェリーも続け、頑張っていきたいと思っています。

最後に、このような経験などができたことは、たくさんの方や、たくさんの仲間などの支えがあったからです。常に感謝する気持ちを忘れずに過ごしていきたいと思いました。以上です。ありがとうございました。

(知 事)

河口さん、ありがとうございました。最後に、地元就職して、地域の活性化に貢献したいと言ってくれたのですけれども、そういうふうになるようになった理由、それはどういふところからですか。

(河 口)

アーチェリーの合宿とか遠征とかで結構遠くに行つて、お金を使わせてもらっているのですけれども、それは全部自分が出しているわけではなくて、幾らか親からもらっているし、中には、県からの予算でおりに合宿もあるので、そういう意味で援助をもらっているんで、今度は就職してから逆に自分が渡す、そういう立場になってみたいと思つて、そういうことを考えました。

(知 事)

アーチェリーの試合に出て、自分は練習もして大変だと思うのですけれども、それは自分の力だけではなくて、周りの皆さんに支えられているということをよく理解されているので、それに対して、ある意味でいうと、恩返しをしたいと、そういうような気持ちになつたということですかね。

(河 口)

はい。

(知 事)

これは、教育した投資のかがあつたということじゃないかと思つても、お話を聞いていて、アーチェリーというのは基本的には個人競技ですよ。団体戦もあるでしょうけれども、基本的には個人の力ですので、チームプレイではないですね。それでも、コミュニケーションであるとか、周りの人との人間関係を大事にしていくことが成績につながるということで、一見、個人が力をつければ良いと思われるようなものでも、そういうところに気づいてくれているということだと思つたのですけれども、これも今のお話ですと、

この海外研修に行き、コミュニケーションの大切さであるとか、あるいは挑戦していくことの大切さを学んだとおっしゃっていただいたので、そこからつながっているのかなど。

(河 口)

そうですね。そこが基礎、そういうのがあったからコミュニケーションにも自信が持てて、海外の方には基本は日本語は伝わらないので、そんな中でもホームステイとかできてやっていけたということが、そういうふうに海外の方でもできているから、日本の方のほうがもっとできるだろうという感じで、自信になっていると思います。

(知 事)

なるほど。本当にこの海外研修も、先ほどの話じゃないですけども、いい投資だったんじゃないかと思えますね。こうやって河口くんのような次代を担ってくれる人が育ってくれているというのは、坂町にとっても明るいニュースではないでしょうか。

それでは、これからの河口さんの活躍に期待をして、皆さん、もう一度大きな拍手をお願いいたします。

(河 口)

ありがとうございました。

(知 事)

ありがとうございました。

#### 事例発表④

(知 事)

続きまして、今度は平成 22 年度の坂町海外研修に参加された、現在高校 2 年生の縫部里穂さんです。

縫部さんは、2 年前の中学 2 年生のときに、ロサンゼルス・サンフランシスコでの坂町海外研修に参加していらっしゃいます。今日は、海外研修に参加されて学んだこと、そして、将来の夢についてお話をいただきます。

発表のテーマは、「インターナショナルな歯科医師を目指して」です。縫部さん、どうぞよろしくお願いします。

(事例発表者 (縫部))

紹介していただいた近畿大学附属東広島高等学校 2 年の縫部です。私は平成 22 年度の坂町海外研修に参加し、アメリカに行きました。私がこの研修に参加したのは、英語が好き

で、得意な自分の力を試してみたいと思ったからです。

まず、研修先の様子を写真と一緒に簡単な英語で紹介したいと思います。

This is Golden Gate Bridge, which is a famous bridge of San Francisco. This bridge is Seto Ohashi and a sister bridge. The full length is about 3 kilometers and if you walk across it, it will take about 1 hour.

This is a place which was fishing port in San Francisco called Fisherman's Wharf, There were many sea lions in the port. I was very surprised at the view which can't be seen in Japan.

We went to a school called the Venice high school, and interchanged with the students. I got to show around the school, the game was played to students in English, and conversations with the students were very pleasant.

We went to the Universal Studios Hollywood. Everybody enjoyed attractions. Moreover, in order to buy supper and a souvenir, some shopping was done by actually talking in English in the store. I talked in English large numbers and spent a pleasant time.

This is the view of city of San Francisco from Twin Peaks.

This is the tram train which is running in city of San Francisco.

このようなたくさんの経験の中で、最も私の心に残り、そして、これからの自分の将来を考える際に大きな影響を与える出来事がありました。それは、実際に現地の人と会話をしたことです。そのとき私は友人と2人で電話のできる場所を探し、ロサンゼルス住宅街を歩いていました。すると、ちょうど黒人のナースの3人組がやってきたので、道に迷っていた私は、とっさに頭に思い浮かんだ道を聞くフレーズを口に出しました。Could you tell me the way to the public phone? これは中学校の教科書に載っていたものでした。公衆電話という単語を入れ、自分なりに言ってみたのですが、発音が悪かったのか、文法的に何かおかしかったのか、ナースたちには通じていないようで、逆に相手を困らせてしまいました。

そのとき、得意なはずの英語が実際には通じなかった悔しさ、英語で会話することの難しさ、言いたいことが頭に浮かぶのにうまく伝えられないもどかしさを感じました。

日本に戻ってきて、この体験を振り返ってみると、日本にいる外国人の多くも自分と同じように苦労をし、うまく伝えられないもどかしさを感じているのだと思いました。欲張



りかもしれませんが、私は将来英語の話せる歯科医師になりたいと思っています。この思いは、アメリカでの苦い経験があつてから一層強くなりました。また、国際化が重要視されている今の世の中で、これからもっと日本に多くの外国人がやってくる、私たちとのかわりが深くなっていくはずでです。そんな中でコミュニケーションをとり、患者さんと心を通わせることの大切な医療の現場で、外国人との言葉の壁をなくすことがこれからの医療に大切だと思います。なので、私は、専門の学問とともに、英語も勉強し、外国の患者さんと心の通わせることのできる歯科医師になりたいです。そして、いつかは海外で貧しい子どもたちを助けるボランティアに参加するのも夢です。

このような夢を具体的に考えられるようになったのは、坂町の支援があり、このたびの研修に参加できたからです。私費での渡航は、なかなかできることではありません。そのため、この坂町海外研修青少年対象事業のように、補助をしていただくことができれば、より多くの学生が海外に目を向け、自分の新たな可能性を見つけることができると思います。歯学を学び、それと同時に海外で通用する英語を習得するのは決して簡単なことではありません。しかし、自分の海外での苦い経験を忘れずに挑戦し続けていきたいです。以上です。ありがとうございました。

(知 事)

縫部さん、ありがとうございました。また、先ほどの河口さんとは違った経験をして、ある意味でいうと、悔しさをばねに、改めて考えられたということなのですからけれども、結構前向きなほうですか。

(縫 部)

はい。

(知 事)

そうですね。通じなくてがっかりじゃなくて、通じなくて頑張ろうという気持ちを持っていくのはとても大事だと思います。そもそも、歯医者さんになりたい、歯科医師になりたいというのは、どこからですか。

(縫 部)

最初は、英語が好きだったので、通訳とか、そういうのをしたいと思っていたのですが、海外研修に参加して、自分の見ていなかったところに知らないことがたくさんあると思って、将来のことも、自分の知らない分野に何か自分の興味のあることがあるかなと思っていろいろ調べてみたら、歯科医師という仕事にとっても興味があつて、それから歯科医師になりたいと思うようになりました。

## (知 事)

知らないことにも取り組んでいく前向きな気持ち、それがまた新しい道、具体的な夢につながっていったということだと思いますけれども、参加をされたのが中学2年生のときですから、そのときにまず英語の力を試してみたいということで、これも自分の力をチャレンジしていく。今日も、皆さんの前で英語でしゃべっていただいたのですけれども、なかなかできないと思うのです。しっかりと前を向いて、新たなことに取り組んでいく。最初は英語で、次に歯科医、それが組み合わさって英語の話せる歯科医師さんになって、また、自分の苦い経験からきたことを、自分のことだけで考えるのではなくて、きっと日本にいる外国人の方も困っているに違いないというところに思いが至って、そういうふうに思っていたいただいたということだと思います。坂町はいい投資をされているなと本当に思います。

広島県でも、今、グローバル人材育成事業というのをやっています、いろいろな形で、高校生あるいは中学生、小学生もやっていますけれども、海外の経験、ないしは外国の文化と触れ合う経験を進めようとしています。こういうふうにするばらしい成果が出ますから、皆さんもご理解とご支援をお願いいたします。

それでは、改めて、縫部さんもこの大きな夢に向かって活躍できるように、皆さん、もう一度大きな拍手をお願いいたします。ありがとうございました。

## 事例発表⑤

### (知 事)

それでは、最後の発表になります。中学3年生の二井矢直央さん、そして、中学2年生の花房亜美さんです。二井矢さんと花房さんは、今年度の坂町海外研修の参加予定者でいらっしゃいます。来月の17日から22日にロサンゼルス・サンフランシスコでの研修に参加をされる予定です。今日は海外研修に参加されるに当たっての意気込み、そして、将来の夢などについてお話しいたします。

発表のテーマは、「海外研修に向けて自分の目指すもの」です。それでは、二井矢さん、花房さん、どうぞよろしく申し上げます。

### (事例発表者 (二井矢))

坂中学校3年の二井矢直央です。よろしく申し上げます。

僕がこの海外研修に参加しようと思ったきっかけは、姉の話です。姉は英語を勉強していて、いろいろな国へ行き、帰国した後、僕にその国の話をしてくれます。例えばネパールでは、ネパール語が話せなくても、友達をたくさんつくったと言っていたし、家の手伝いや畑仕事で学校に行けない子どもたちもたくさんいると言っていました。カンボジアで

は、最近まで地雷だらけだった発掘途中の遺跡を見せてもらったりしたそうです。カエルやドジョウ、ヒツジの脳みそやハエも食べたそうです。フィリピンでは、果物が道ばたでたくさん売っていて、安くておいしいし、英語で授業をしているから、みんな英語が話せるそうです。

このように海外では日本で考えられないような文化や食べ物があると知りました。それを聞いて、僕も実際に海外での生活を体験してみたいと思いました。そして、何より、海外で出会った人たちの話を聞いて、僕も世界中に友達をつくりたいと思いました。

僕はあまり英語が得意ではないし、以前僕の家でホームステイの受入れをしたときは、全く話ができませんでした。今回の研修では、身振り手振りを交えて、できる限りコミュニケーションをとりたいと思います。また、僕が一番楽しみにしているのはホームステイですが、ロサンゼルスでは、学校訪問や授業体験などがあるので、日本の学校とどんな違いがあるのか楽しみです。そして、僕が見てきたことや体験してきたことを周りの人たちに話したり、これからの学校生活や将来の仕事に活かしたいと思います。

#### (事例発表者 (花房))

坂中学校2年の花房亜美です。よろしくお願いします。

私がこの海外研修に行きたいと思った理由は三つあります。

まず一つ目は、英語が好きだからです。私は小学校のころから英語を習っていて、本場の英語を肌で感じ、今後の勉強などに活かしていきたいからです。

二つ目は、私は自然いっぱい地域の方々がとても温かい坂町が大好きで、アメリカと坂町といった全く違った環境で生活することによって、ロサンゼルスとサンフランシスコのまちのすばらしいところも見つけられると思うし、反対に、この坂町に住むことのありがたさやすばらしさも感じる事ができると思ったからです。

三つ目は、私は料理をしたり、食べたりすることが好きで、日本とアメリカの食文化の違いを知り、今後の家庭での料理づくりに活かしていきたいと思ったからです。

以上の三つの理由と目的からこの海外研修に行きたいと思いました。そして、私はこの海外研修を通して、ほかの国の人とのコミュニケーションを学び、いろいろな場面で人の言うことにしっかり耳を傾けたり、自分の意見を人にしっかりと伝えられるような人間になりたいと思います。

#### (知 事)

ありがとうございました。花房さん、二井矢さん、お二人に発表いただきました。今日は3組この海外研修の関係で来ていただいたのですけれども、一番上が河口さんで高校3年生、縫部さんが高校2年生、そして今度の中学校3年生、2年生でそれぞれ参加をいただくのですけれども、何と云うのですか、坂町の子どもたちって、みんなこんなにしっ

かりしているのですか。「はい」「はい」と言われていますけれども、今の発表の作文だけでも、別に先生が書いたわけではないと思いますが、すごくしっかりしていると思います。目的意識もはっきりしているし、実際に経験をして、行った結果が先ほどのお二人ですけれども、このお二人もしっかりしているし、皆さんのお話を聞いていると、本当に未来は明るいなど、そういう気がします。

先ほどもちょっと申し上げましたけれども、広島はグローバル化の時代ということで、子どもたちがなるべく早い段階で世界のことを知っていく、触れていく。それはなぜかという、広島から出て行くということではなくて、広島にこれからどんどんたくさん世界から人がやってこられると思うのです。いやでも応でもそういう方々とおつき合いをしなければいけない。これから仕事をする中でも、きっと海外の人と仕事をしなければいけないことがどんどん増えていくと思うのです。だけど、中学生ですからね。まだかわいい感じですね。こういうときから取り組んでもらったら、すばらしい未来につながっていく気がいたしました。今日は、二井矢さん、花房さんはドキドキだったと思いますけれども、本当にありがとうございました。このお二人の渡航が成功するように、また大きな拍手をお願いいたします。

(司 会)

ありがとうございました。以上で予定の事例発表は終了となります。

## 閉 会

(司 会)

ここで湯崎知事に本日のまとめをお願いいたします。

(知 事)

ありがとうございました。今日は、地域の宝チャレンジ・トークに皆様ご参加いただきまして改めてお礼申し上げたいと思います。

最初のお二人は地域のイベントに取り組んでいただいて、そして、若者4人はそれぞれの立場でいろいろな挑戦、それぞれ夢を持って進んでいただいていると思います。もともと坂町は移民の歴史もあって、海外とは大変深いつながりがあるところです。私は今日そのもとになっているスピリットを感じることができた気がいたしました。坂町は人口としては1万3,000人ですから、それほど大きなまちではないですけれども、こうやってそこを盛り上げていただいているお二人、放っておけば、別に何も困らないと思うのです。もちろんまちづくりというのは、誰かがやらなければいけないけれども、坂町は広島市のベッ

ドタウン的な位置付けもありますし、そういうまちづくりに携わらなくても、そんなに困らないまちなのです。田舎に行くと、本当に力を入れてやらないと、どんどん活気が失われていくところもあるのですけれども、坂町はそうでもない。だけれども、そういう中でもまちを盛り上げていくために力を入れて取り組んでいってほしい。そして、若い人たちは若い人たちで、しっかりと夢を持って自分の道を切り開いていく。本当にお一人おひとりの活動なのですけれども、そういうことが少しずつの違いを地域にもたらしていると思いますし、これから将来、それをまたもたらしていくのではないかと思います。

広島県は実は2年ほど前に「ひろしま未来チャレンジビジョン」という10年後の広島県の姿、こういうふうになりたいなというビジョンをつくって発表しております。もちろんそのビジョンを実現するために今いろいろな施策を行っているところなのですけれども、このビジョンの一つの大きなテーマ、柱に、主役は県民の皆さん一人ひとりですということがあります。つまり、これは行政がどんなにまちづくりをやろう、まちを活性化しようと思っても、どうにかなるわけではない。坂町であれば、町民の皆さんがみずから手でそれをして、初めて本当に活性化をしていくと思いますし、また、今のグローバル化とか、そういうことも施策として進めています。今日、河口さんや縫部さんの発表にあったように、こういった若者たちが実際にグローバル化することの意味を自らとらえて、自分の人生の文脈の中でそれを考えて実行していきながら初めてこのグローバル化ということが進んでいくと思うのです。そういう意味で、県民の皆さん一人ひとりの活動であるとか、やること、ちょっとずつ違うことをやる。ちょっとずつ頑張る。ちょっとずつ新しいことに挑戦するということが、総体としては本当に大きな違いを生んでいくと思います。

そういう意味で、今日会場にお集まりの皆様も、いろいろなお立場があると思いますけれども、家庭、職場、地域、あるいはその他のグループ等々いろいろありますけれども、是非また挑戦の輪を広げていっていただいで、よりよい坂町、そしてまたよりよい広島県づくりにご協力をいただければと思います。本当にありがとうございました。

そして、一つ私からお知らせがございます。広島県では、国際平和拠点の形成に向け「ピース・アーチ・ひろしま」プロジェクトというものを展開しています。この国際平和拠点というのは、広島はもちろん平和との関連で世界的に知られたまちですけれども、もっともっと世界の平和に関する活動や人、そういったことが広島に集まるように進めていきたいと考えて、いろいろなプロジェクトを展開しています。この「ピース・アーチ・ひろしま」というのは、音楽を通じて平和のメッセージを世界に届けていこうというプロジェクトですけれども、来年の2013年に、原爆の日の一週間ほどかけて、世界のトップアーティストに来ていただいて音楽祭をやることになっています。この気運醸成を図るために、実は今年も県内の全市町でリレーコンサートを開催しています。坂町では今月22日、来週の日曜日にこの坂町町民センターで平成24年度坂町平和音楽祭とあわせて、上西千波さんのジャズコンサートを開催する予定にしています。とてもすてきな上西さんですので、是非

お越しいただければと思っております。

以上で終了とさせていただきたいと思えます。今日は本当にありがとうございました。

**(司 会)**

以上をもちまして、「湯崎英彦の地域の宝チャレンジ・トーク」を閉会します。ご来場いただきました皆様、本当にありがとうございました。

なお、ご来場時にお渡ししたアンケートと地域の宝ネットワークの申込書を出口で回収いたしますので、よろしく願いいたします。

また、地域の宝ネットワークにおいては、フェイスブックによる情報の交流も行っております。このため、フェイスブックの手続きの仕方についての説明会をこの後すぐに開催しますので、ご希望の方は会場の右前にお集まりください。

本日はご参加をいただき誠にありがとうございました。どうかお気をつけてお帰りください。